

父は 八十八年の生涯の中で 皆様との出会いをいただきました  
それは 父にとって大切な宝物の大きなひとつです  
遺影の笑顔は、皆様への感謝の気持ち……

時のフィルムを巻き戻し 笑顔の時間をたどっていくと子供たちを  
乗せた我が家の車が走っています いつも大自然へと招待してくれ  
た父 冬は梅の花春は桜そして藤 あやめへと 思い出のフィルム  
には 日本の四季が写し出されています さまざまなものが生まれ  
さまざまなのが消え行く覚悟の中で 美しい季節の移り変わりに  
幼なかつた私たちは 勇気を授かりました そして 四季の行事  
を通じ父ははじめを教えてくださいましたそんな父を慕い 我が家へ集  
まってくださる部下の皆様愛情という調味料で腕をふるう母の笑顔  
大きく広げた父の胸には 幸せがありました 仕事を通じ ゴルフ  
を通じ育まれた皆様との時間

どこまでも広がる空に 大きくスウィングすると 父の寛大な笑い  
声が届きます 風もなく雨もなく 永久に広がる かの地にて  
今 ゴルフを楽しんでいるのでしょうか それとも 家族で訪れた  
山々を巡っているのでしょうか 車窓から広がる風景は 思い出の  
絵画 趣味の写真は あの日の時間をきりとりてくれました

父の亡くなった日 五月三日は 母の命日でした 片道切符を持つ  
て乗った旅の終着駅で待っているのは 母の笑顔に違いありません  
今日は 父と母の再会を祝し 私たち兄弟は ありがとう と言う  
心の花束を抱いています

本日は 多くの皆様にお集まりいただき 父は 喜んでいることと  
思います 略儀ながら 書中をもって厚く御礼申し上げます

平成〇年〇月〇日

喪主 玉屋 太郎